

Newsletter

発行元 : SID日本支部
発行責任者 : 面谷 信
発行日 : 2015年1月10日

日本支部

第58号

支部HP URL : <http://www.sid-japan.org/index.html>

Message of the New Chapter Chair Makoto Omodani, Tokai University



It is my great honor to introduce myself as a new chair of SID Japan chapter. Former chair Dr. Tsujimura was elected as a secretary of SID board in June 2014; that was why I became a successor of him one year earlier than usual schedule. My background was originally printing technologies, such as laser/inkjet printing, and then my field has gradually shifted to display area via rewritable printing, paper-like display and electronic paper technologies. I hope I can contribute to display field with a fresh view point as a relative new comer in this field.

Japan chapter is one of big chapters in SID, which has around 700 members. Activities of Japan chapter have been clearly shown by its great contribution to SID Display Week with large number of papers and attendees, prosperous status of IDW and various tutorial events held in Japan. On the other hand, recent yen depreciation has brought symptom of financial difficulty to Japan chapter; we have to be careful about financial management of our chapter. An increase of members is one of important themes of Japan chapter. I would like respectfully request the chapter members active contributions and kind understanding to SID activities especially Japan chapter.

SID日本支部の支部長を2014年6月より務めさせて頂いております東海大学の面谷より、遅ればせながら就任のご挨拶を述べさせて頂きます。実は2014年末までは辻村前支部長が支部長を務める予定でありましたが、辻村前支部長が2014年6月よりSID本部理事会の役員 (Secretary) に就任し、支部長との兼任は不都合とのことで、副支部長として2年目を迎えたばかりの面谷に急遽バトンタッチとなった次第です。不慣れなところも多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。面谷は元々レーザー方式等々のプリント技術の分野をバックグラウンドとし、リライタブルプリンタ ~ ペーパーライクディスプレイ ~ 電子ペーパー、と次第にディスプレイの世界に足を踏み入れることになった新参加者ですが、その分、少し異なった視点も持ってこの分野に何らかの貢献ができればと思っております。

さて昨今のディスプレイ分野を俯瞰しますと、リーマンショックや過当競争により特に日本の国内生産が非常に厳しい状況に置かれた時期を経て、ようやく上向きの兆しが見られつつあるように見受けられます。人々がディスプレイ類を見る時間は確実に増えつつあり、特に従来のようにTVだけではなく、スマートホン、タブレット、ゲーム機、電子書籍端末等々、多様なディスプレイメディアに我々の24時間が細分されつつある現実に注目が必要と思われます。一方、ディスプレイの新しい活躍の場として車載用途、デジタルサイネージ、ウェアラブルディスプレイ等々への展開も進みつつあり、ディスプレイ技術者・研究者の活躍の場、ビジネスチャンスは今後ますます広がると期待されます。このような中、SID日本支部は会員各位の国際活動ならびに国内活動の活性化のお手伝いによりディスプレイ分野を盛り上げることをミッションに各種活動を精力的に進めております。

総会員数約5000人のSIDの中で日本支部は約700人の会員を擁する大きな支部であり、その会員のアクティビティの高さはSIDシンポジウムへの多くの発表数および参加者数、SID/ITE共催のIDWの盛況、SID報告会、サマーセミナー、IDWチュートリアル等の盛況等によりSID全体の中でも際立っていますが、一方で、ドル/円の為替相場に大きな影響を受ける現状の支部経営には危うい面も抱えています。年会費

や支払いシステムの見直し等の点で、今後会員の皆様にも、あるいはご協力やご負担をお願いする局面もあるかと思いますが、ディスプレイ分野のますますの隆盛を目指し、今後ともSID活動への皆様の積極的な参画とご協力をお願い致します。

支部長退任あいさつ コニカミノルタ（株） 辻村 隆俊



2010年にSID日本支部副支部長を拝命頂いてから4年、諸先輩方々、役員、評議員の方々のアドバイスを頂きながら役職を務めさせて頂きました。ご協力頂きました皆様に心から感謝いたします。

本来であれば2014年度最後まで支部長をさせて頂く予定でしたが、2014年春におこなわれましたSID本部の選挙でSecretaryの重責を頂き、各国支部間の公平性維持の観点から支部長を退任させて頂きました。今後Treasurer, President-Elect, Presidentと言ったさらなる重責が待ち受けておりますが、日本代表として積極的に携わっていきたいと考えています。皆様のさらなるご支援、ご助言を頂ければ幸いです。また、新支部長、新副支部長となりました

面谷先生、奥村様には日本支部における強いリーダーシップによるディスプレイ業界再構築を期待しております。

長くこの産業におられる方は、20年ほど前「10インチ5万円を割ればブームになる」というスローガンの元に日本の各メーカーが全精力をあげてフラットパネルディスプレイ開発を行っていた事が記憶に鮮明に残っているのではないかと思います。学会に行くたびに想像もしなかった新技術を目の当たりにし、各社の発想力の豊かさ、技術力の高さに舌を巻いていたのを記憶しています。例えば液晶。素晴らしい視野角となり、素晴らしいコントラストとなり、いろいろな機能がガラス上に内蔵され、みるみるうちに魅力的、理想的なディスプレイが実現されていく技術革新に皆で興奮していたと思います。

時は流れ、フラットパネルディスプレイはすでに「あたりまえ」となり、32インチ超の液晶ディスプレイが5万円を割る時代、ディスプレイ産業は違う特徴を必要としていると考えられます。4K, 8Kといった超高精細やフレキシブルディスプレイも興味深いですし、さて次はどんな形容詞だろうと考えただけでワクワク致します。ここ20年やり続けてきた成功方程式を捨て、あの当時の気持ちに戻って新たなチャレンジをしていく事が日本ディスプレイ業界復権のカギなのでは無いかと思います。

一方で日本の素材産業は今日のディスプレイ生産を下支えしていると考えられます。縁の下の力持ちとしての役割を十二分発揮して、他に真似のできない強さを誇っている高付加価値企業がたくさんあります。是非SIDを活かして頂き、強い日本チーム実現のためリーダーシップを発揮頂きたく思います。

次の20年ディスプレイはどうなるのでしょうか。視覚は人間の持つもっとも重要なセンサーです。このもっとも重要な部位に働きかけていけるディスプレイ業界はこれからも人類にとって重要な役割を果たすに違いありません。是非皆様の叡智によって、素晴らしいユーザー体験を実現して頂きたいと思います。これからもご指導のほど、よろしくお願いします。

IDW '14開催報告 IDW '14実行委員長 小村 真一（ジャパンディスプレイ）



第21回ディスプレイ国際ワークショップ (The 21st International Display Workshops (IDW '14)) は2014年12月3日から5日までの3日間、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンターにて開催されました。

初日のKeynote Addressesでは、NHKの菅原氏に8Kの最近の進展について、Qualcomm社のHong氏にウェアブル用途に適したディスプレイ技術について紹介していただきました。また、Invited Addressesでは、KAISTのPark氏に酸化物TFT、東京大学の染谷教授にフレキシブルエレクトロニクスの研究開発状況をレビューしていただきました。

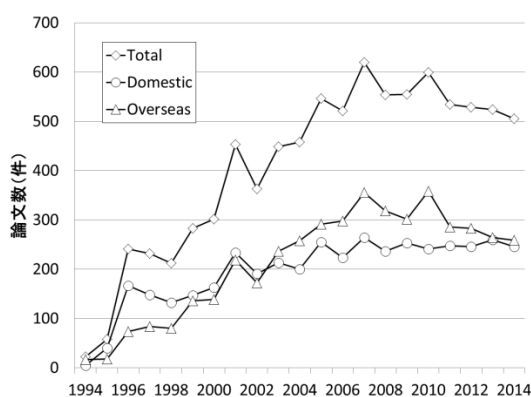
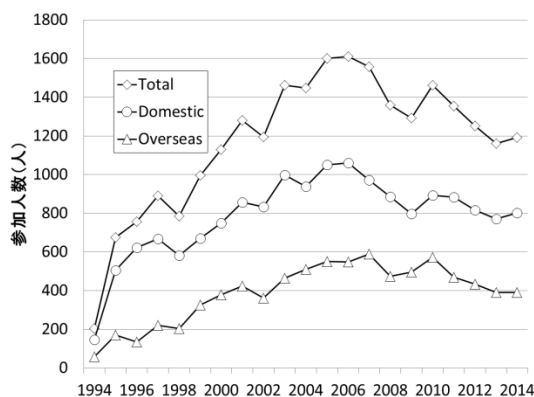
今年は、新しい取り組みとしてIDW ScopeとInnovative Demonstration Sessionを導入いたしました。皆様の忌憚のないご意見を反映させながら定着させていきたいと考えています。

IDW Scopeは技術分野を参加者によりわかりやすくすることを目的に導入いたしました。Call for Paperにて投稿募集の技術分野をIDW Scopeとして示しました。また、Final Programに見開きページとして挿入されているSession Navigatorでは技術分野をIDW Scopeで分類して表示しました。参加いただいた方々の理解の助けになっていれば幸いです。

Innovative Demonstration Sessionは、デモを実施することで、より深い理解が可能となる発表に対して提供されたデモの機会です。2日間のセッションで31件の発表がありました。簡易暗室内のデモ等もあり盛況でした。また、参加者によるBest Demonstration Awardの投票も行われました。

ここ最近のIDW参加者数は2006年（1610名）をピークに減少の傾向にありましたが、今年は昨年の札幌（1160名）とほぼ同等の1191名（暫定）でした。発表論文数は2007年をピークに徐々に減少しており、今年は505件（暫定）の論文数となりました。2007年以降、国内からの発表件数はそれほど変わっていないのに対し、海外からの発表件数が減少してきている状況にあります。ディスプレイの環境はここ数年で激変しており、IDWとしても、海外からも積極的に投稿していただき、多数の参加者に興味を持っていただける運営が必要と考えております。

最後に、本会を支えていただいたワークショップ委員、組織委員、実行委員、プログラム委員の皆様、協賛いただいた学会、賛助いただいた企業の皆様に厚くお礼申し上げます。



SID日本支部学生支援制度を受けてIDW '14に参加して

IDW '14で発表を行った9名の学生会員に対し、SID日本支部から発表支援を行いました。その中から2名の方にIDW '14参加の感想をいただきました。

佐藤 孝太郎（東海大学）



この度私は、IDW '14にてショートプレゼン付きのEPポスターセッションにて研究発表をさせていただきました。私の研究テーマは電子ペーパー技術の一種である電気泳動表示方式の研究で、本表示方式の欠点とされる応答速度の向上方法について検討を行っております。市販のデバイスでは見ることができない、画像表示の仕組みの観察ができる魅力を知ったことがきっかけで本テーマを選び、現在に至ります。

本学会につきましては、学部4年時に自ら志願し展示要員として参加させて頂き、大学院進学後は必ず発表者として参加するという目標を立て、2年の歳月を経て念願の発表が叶いました。世界中の研究者の方々との交流を通して、社会人としてもグローバルに活躍したい気持ちがより一層強くなりました。私は来春を持って修了となり、就職後はディスプレイ技術とは異なる分野でのスタートとなる可能性が高いですが、学会発表の経験が仕事に非常に役立つと思っております。

この度、学生支援制度によるご支援を頂きました、SID日本支部の皆様には深く感謝の意を表します。今回のご支援を励みとし、いつの日か、企業の研究者として再び国際学会へ参加出来る様に励んで行きたいと思っております。

鎮目 隆矢 (静岡大学)



この度私は、IDW '14の学生支援制度を利用させていただき学会への参加および発表を行いました。学生支援制度の適用ありがとうございました。

私は、VHFの部門において口頭発表を行わせていただきました。研究は、自然画像における視線追跡情報を用いたヘルムホルツ-コールラウシュ効果の推定についてで、ディスプレイ研究に携わる多くの方々に私の研究について知っていただけたと感じております。英語による発表は困難でしたが無事終えることができ、また研究に関して貴重なご意見をいただくことができました。今回の経験は、今後の研究を進めていく上での財産となりました。

IDW '14への参加および発表に際しまして、SID日本支部学生支援制度を利用させていただいたこと、およびこのような発表の機会を設けていただいたことに對し、関係者の皆様に感謝いたします。今回の経験を活かし、ディスプレイ分野の発展に貢献できるよう研究者として日々精進していく所存です。

2015年度SID日本支部役員体制について

11月22日から12月5日までの期間で、2015年のSID日本支部役員に関する電子投票を行い、以下の通り役員が決定いたしました。

- 支部長 面谷 信 (東海大学)
- 副支部長 奥村 治彦 (東芝)
- 庶務幹事 志賀 智一 (電気通信大学)
- 会計幹事 木村 宗弘 (長岡技術科学大学)
- 庶務幹事補佐 小俣 一由 (コニカミノルタ)
- 会計幹事補佐 勝田 昇平 (シャープ)

今後の主な学会、研究会等日程

現時点で実施の決まっている主な学会／研究会は以下のとおりです。

日程	研究会名	開催地
1/24, 25	発光型／非発光型ディスプレイ合同研究会	京都・龍谷大学響都ホール校友会館
5/31-6/5	Display Week 2015 (SID 2015)	San Jose, USA
6/16-19	EM-NANO 2015	新潟・朱鷺メッセ
7月未定	SID 2015報告会	東京都内
8月未定	SID日本支部サマーセミナー	東京都内
12/8	IDW '15チュートリアル	大津・大津プリンスホテル
12/9-11	IDW '15	

上記未定内容やほかの学会等の開催案内は、詳細が決まり日本支部ホームページに掲載します。

編集後記：台風のような悪天候の中、ありがたいことに多くの方にIDW '14チュートリアルに参加していただきました。今年も日本支部としては、報告会、サマーセミナー、チュートリアルなどを開催しますので是非ご参加ください。次号からは新たな幹事が編集担当を務めることとなります。

編集担当：志賀智一 (電通大) tomokazu.shiga@uec.ac.jp